

奈良県公共交通基本計画

資料編

目次

1 社会情勢.....	1
1.1 人口減少と高齢化.....	1
1.1.1 人口減少.....	1
1.1.2 高齢化.....	2
1.1.3 自動車保有率.....	3
1.2 ライフスタイルの変化.....	4
1.2.1 インターネットの普及.....	4
1.2.2 スマートフォンの普及.....	5
1.2.3 インターネットショッピングの普及.....	5
1.2.4 余暇の過ごし方.....	6
1.3 観光.....	8
1.4 マイカーの普及.....	9
1.4.1 自動車保有台数.....	9
1.4.2 免許保有者数.....	9
1.4.3 自動車交通量.....	10
1.5 市町村財政.....	12
2 交通事業者を取り巻く環境.....	14
2.1 道路交通環境.....	14
2.1.1 混雑度.....	14
2.1.2 旅行速度.....	15
2.2 鉄道・路線バス.....	16
2.2.1 提供サービス.....	16
2.2.2 輸送人員.....	19
2.2.3 バス事業.....	21
2.3 タクシー.....	24
2.3.1 車両数.....	24
2.3.2 輸送人員.....	24
3 人々の動きの変化.....	26
3.1 外出率.....	26
3.2 発生集中交通量.....	27
3.3 代表交通手段別発生集中交通量.....	28
3.4 年齢別発生集中交通量.....	29
3.5 市町村別発生集中交通量.....	30
3.6 鉄道駅端末交通分担率.....	31
3.7 流動状況.....	32
3.8 時間帯別移動状況.....	33
3.9 健常者・障害者別移動状況.....	33

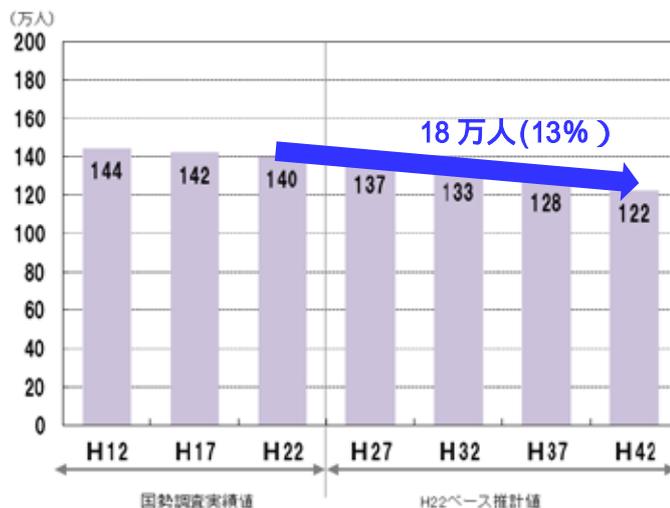
1 社会情勢

1.1 人口減少と高齢化

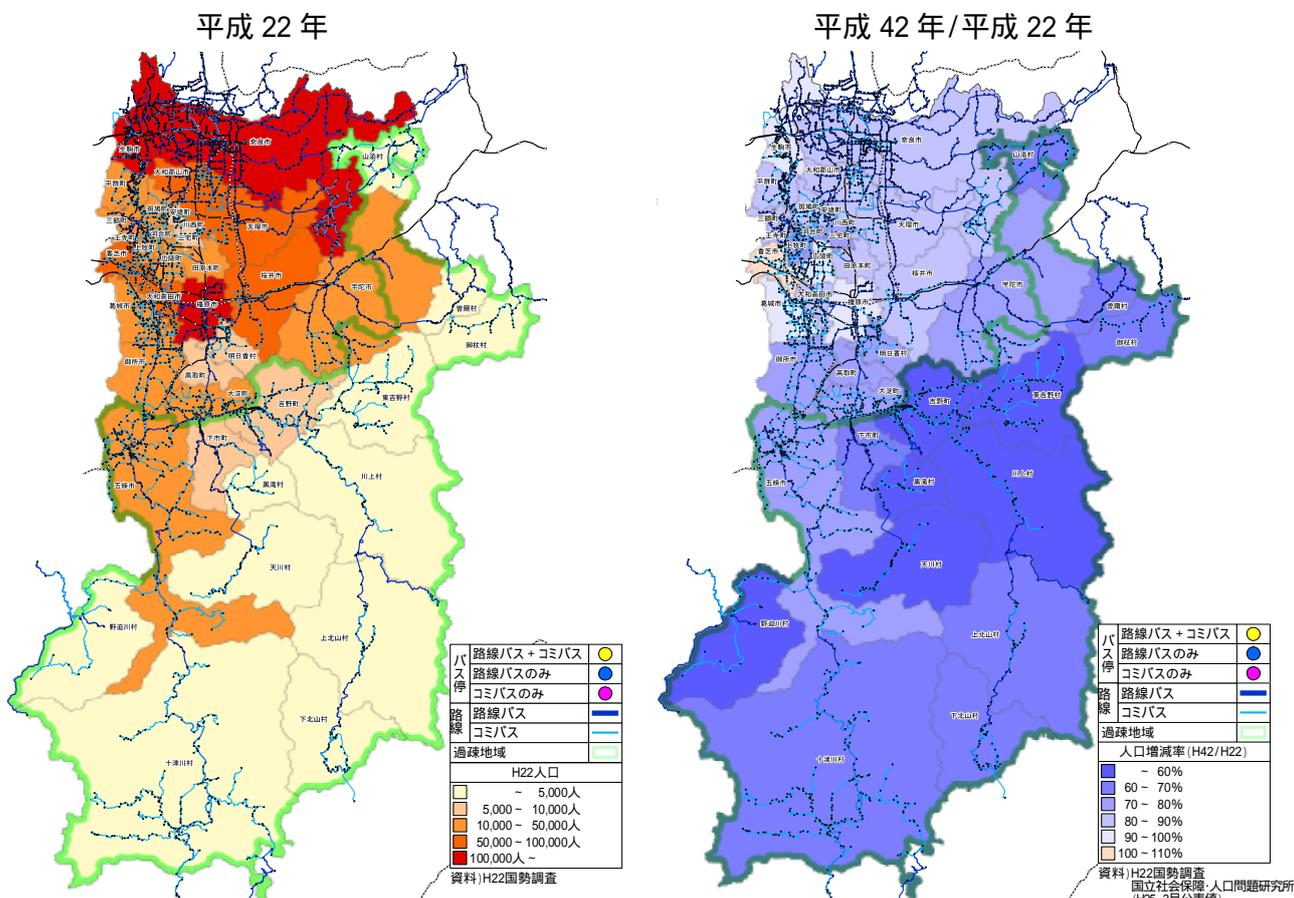
1.1.1 人口減少

- ・ 県人口は県北部や中部に多く、南部・東部とは顕著な差異
- ・ 平成 42 年には、県全域で 18 万人（約 13%）、特に南部・東部では、ほとんどの市町村で 30%を超える人口減少が予測される

【県人口とその推移（平成 12 年～平成 42 年）】



【市町村別人口とその推移】

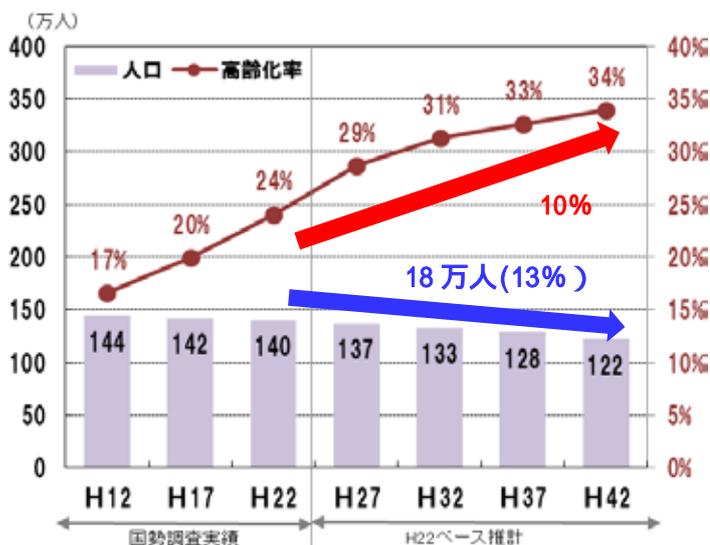


資料: 国勢調査(平成 12 年～平成 22 年)、人口問題研究所平成 25 年推計(平成 27 年～平成 42 年)

1.1.2 高齢化

- ・ 奈良県の将来人口は減少する一方、高齢化率は平成 22 年～平成 42 年で約 10% 上昇する見通し
- ・ 高齢化率は南部・東部で高く、将来は県全域で上昇する見通し

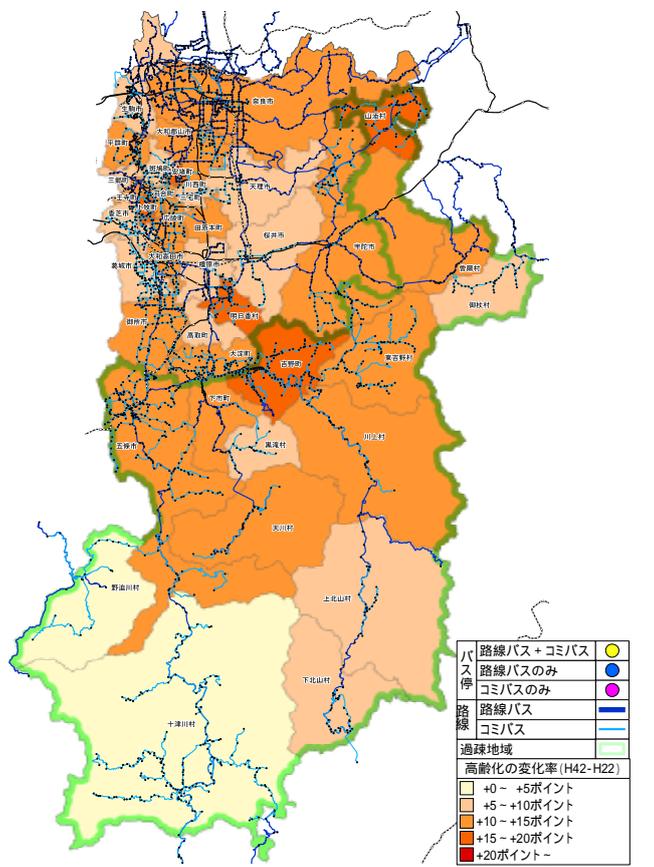
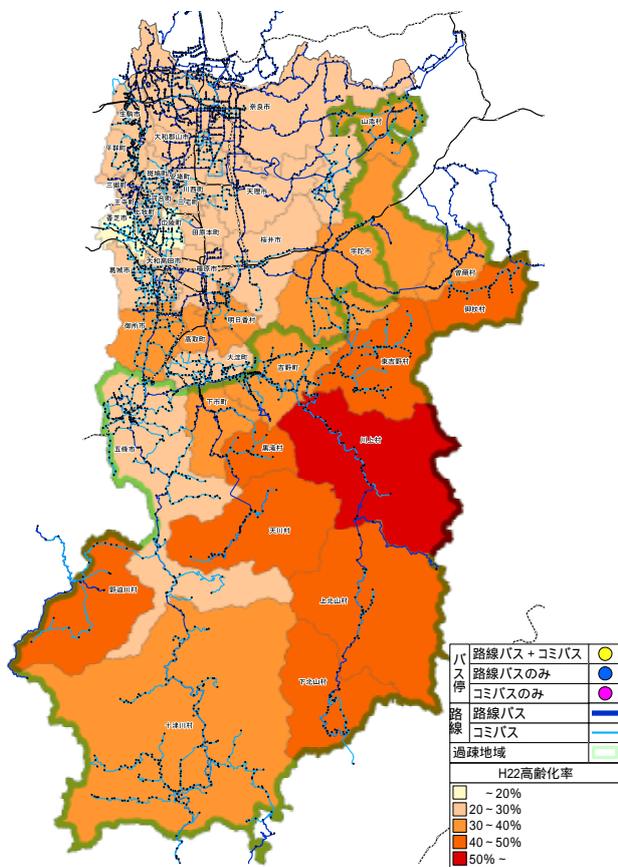
【人口と高齢化率の推移】



【高齢化率とその推移】

平成 22 年

平成 42 年 - 平成 22 年

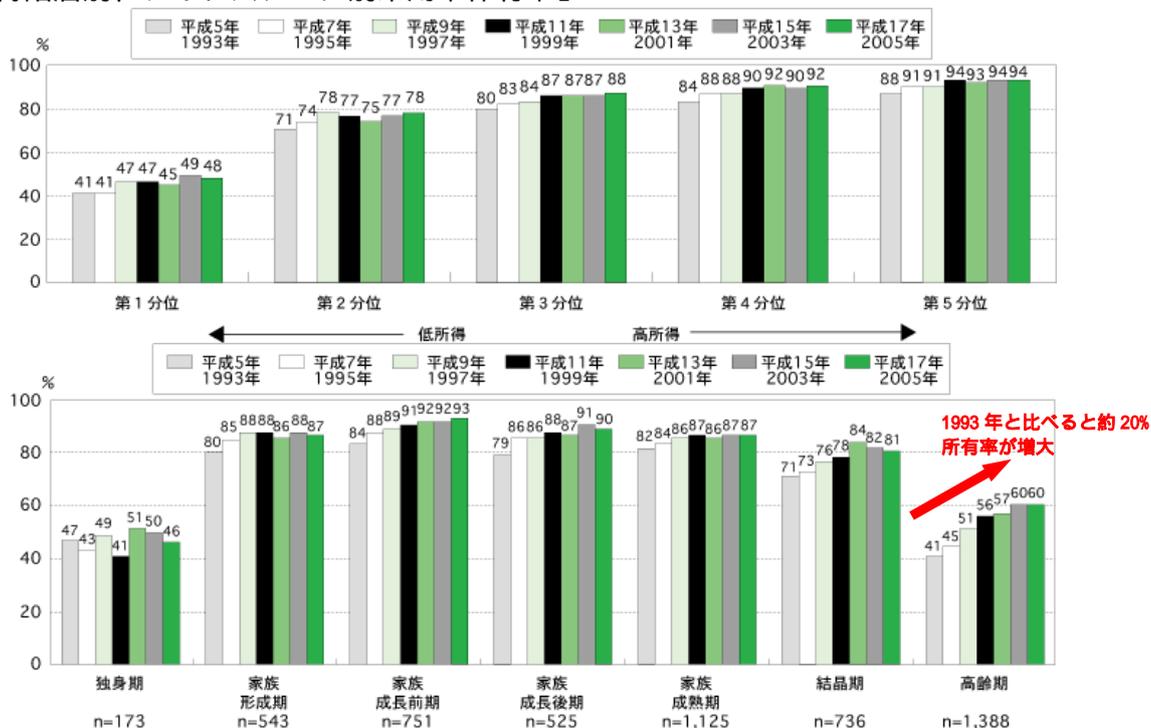


資料: 国勢調査 (平成 12 年 ~ 平成 22 年)、人口問題研究所平成 25 年推計 (平成 27 年 ~ 平成 42 年)

1.1.3 自動車保有率

- ・ 収入が低いほど自動車保有率は低い
- ・ ライフステージ別では、高齢期になると自動車保有率が低下
- ・ 高齢期については平成5年～平成17年で自動車保有率が約20%増加

【所得階層別、ライフステージ別乗用車保有率】



・ 独 身 期	= 39 歳以下の単身者
・ 家族形成期	= 家計中心者の長子が未就学児の世帯、または家計中心者が 39 歳以下で子どものいない普通世帯
・ 家族成長前期	= 家計中心者の長子が小・中学生の世帯
・ 家族成長後期	= 家計中心者の長子が高校・大学生の世帯
・ 家族成熟期	= 家計中心者の長子が学校を終えて、まだ結婚していない世帯
・ 結 晶 期	= 子どもが結婚して同居している世帯、または結婚した子どもは別居しているが、他に未婚の子または就学中の子がいる世帯（子がいないか、単身で 40～54 歳のものを含む）
・ 高 齢 期	= 子は（すべて）結婚して別居している世帯、または子どもがいないか、単身で 55 歳以上の世帯

1.2 ライフスタイルの変化

1.2.1 インターネットの普及

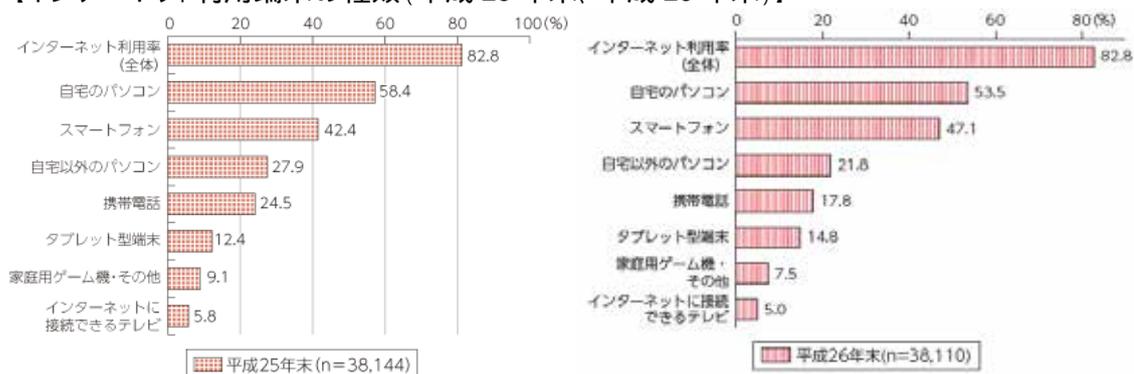
- ・我が国の平成26年末のインターネット利用者数は10,018万人、人口普及率は約83%とインターネットが普及
- ・端末別インターネット利用状況を見ると、「自宅のパソコン」が最も多く、次いで「スマートフォン」となっているが、「スマートフォン」の利用割合は増大

【インターネットの利用者数及び人口普及率の推移】



資料: 情報通信白書平成27年版

【インターネット利用端末の種類(平成25年末、平成26年末)】



※当該端末を用いて平成25年の1年間にインターネットを利用したことがある人の比率を示す

※当該端末を用いて平成26年の1年間にインターネットを利用したことがある人の比率を示す

資料: 情報通信白書平成26年版、平成27年版

1.2.2 スマートフォンの普及

・我が国の情報通信端末の普及状況を見ると、「携帯電話・PHS」は約 95% となっており、「スマートフォン」は、約 64% と急速に普及

【情報通信端末の世帯保有率の推移】



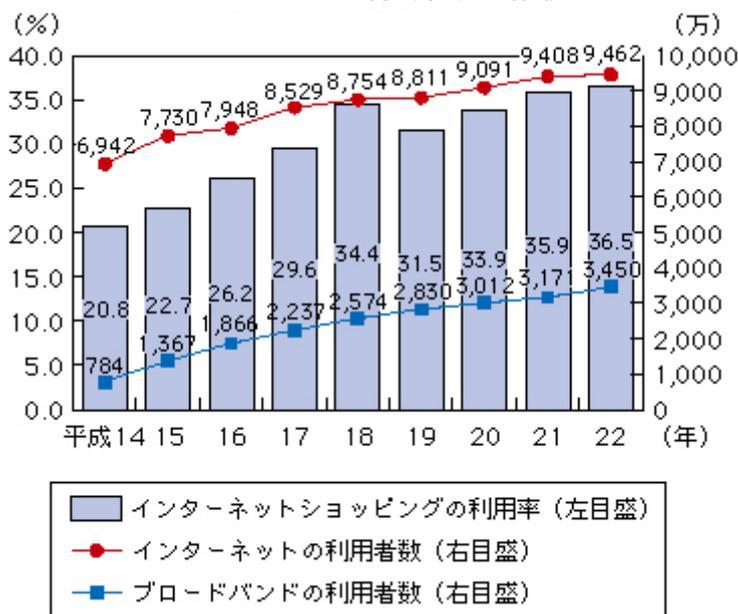
1.2:「スマートフォン」は「携帯電話・PHS」の内数

資料:情報通信白書平成 27 年版

1.2.3 インターネットショッピングの普及

・我が国の 15 歳以上におけるインターネットショッピング利用率は平成 14 年の約 21% から、平成 22 年には約 37% に増加

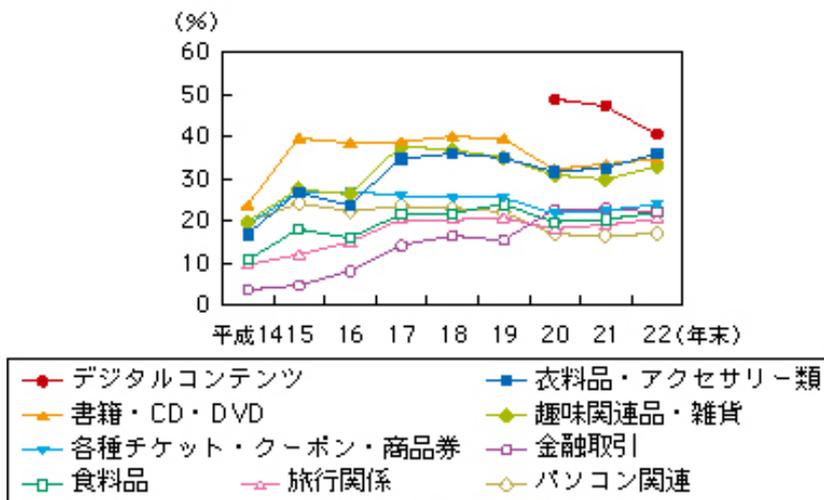
【インターネットショッピングの利用状況の推移】



資料:情報通信白書平成 23 年版

・ インターネットショッピング利用者の購入商品を見ると、特に伸びが大きいのは、「金融取引」、「衣料品・アクセサリ類」、「趣味関連品・雑貨」、「食料品」などであり、近年、インターネットショッピングにおいて生活に身近な一般品の購入割合が大きくなったと考えられる

【インターネットショッピングでの主要購入商品の推移】



資料: 情報通信白書平成 23 年版

1.2.4 余暇の過ごし方

・ 本県では、「学習・自己啓発・訓練」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」、「ボランティア活動・社会参加活動」による積極的自由時間が減少する一方、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」による休養等自由時間は増加

【3次活動時間の推移(平成18年、平成23年)-週全体、15歳以上】

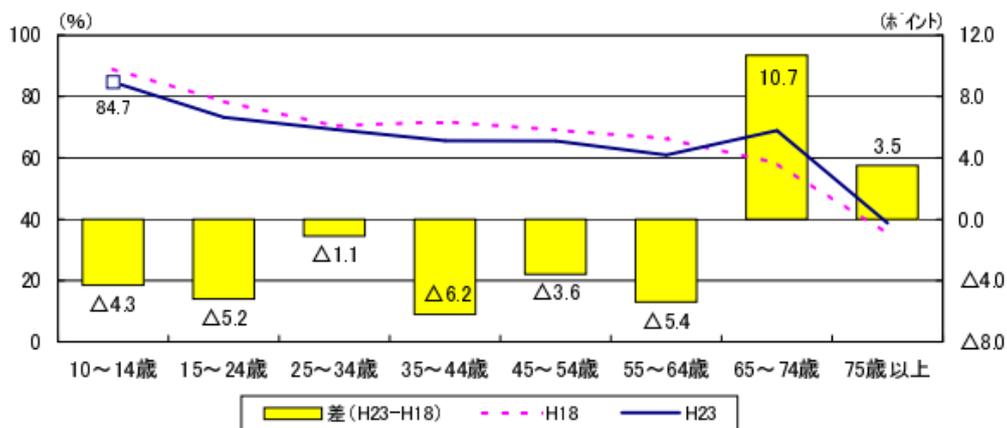
		単位(時間.分)			
		総時間	休養等自由時間*1	積極的自由時間*2	その他*3
H23年	総数	6.24	3.59	1.13	1.15
	男	6.39	4.06	1.25	1.08
	女	6.11	3.52	1.00	1.20
H18年	総数	6.18	3.44	1.14	1.20
	男	6.28	3.48	1.26	1.15
	女	6.09	3.41	1.03	1.27
増減 (H23-H18)	総数	0.06	0.15	△ 0.01	△ 0.05
	男	0.11	0.18	△ 0.01	△ 0.07
	女	0.02	0.11	△ 0.03	△ 0.07

- *1 休養等自由時間:「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」
 *2 積極的自由時間:「学習・自己啓発・訓練(学業以外)」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」、「ボランティア活動・社会参加活動」
 *3 その他:「移動(通勤・通学を除く)」、「交際・つきあい」、「受診・診療」、「その他」

資料:平成23年社会生活基本調査(奈良県結果の概要)

・ 本県の64歳以下の世代では、「スポーツ」の行動者率が減少

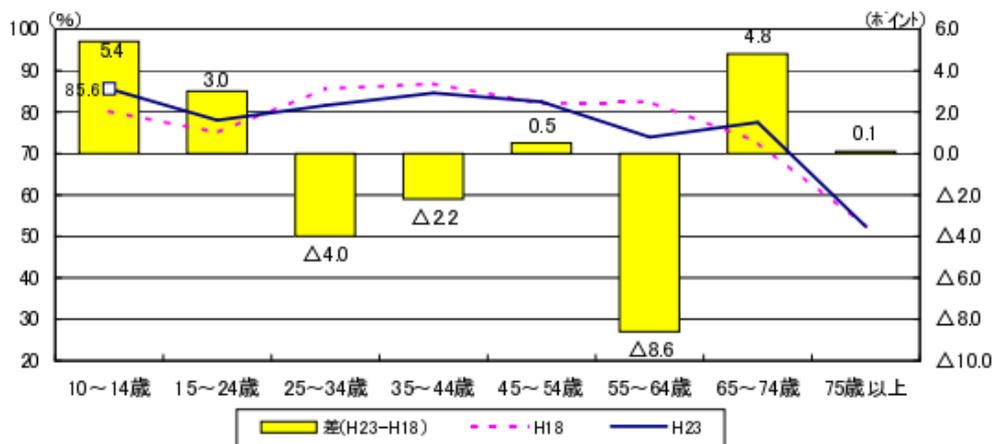
【「スポーツ」年齢階級別行動者率(平成18年、平成23年)】



資料:平成23年社会生活基本調査(奈良県結果の概要)

・ 本県の25歳~44歳の世代、55歳~64歳の世代では、「旅行・行楽」の行動者率が減少

【「旅行・行楽」年齢階級別行動者率(平成18年、平成23年)】

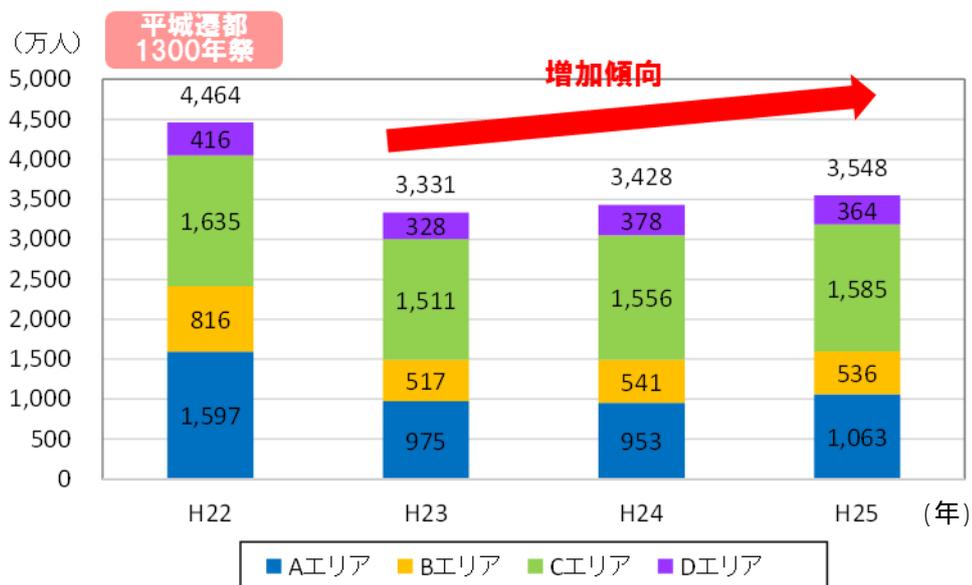


資料:平成23年社会生活基本調査(奈良県結果の概要)

1.3 観光

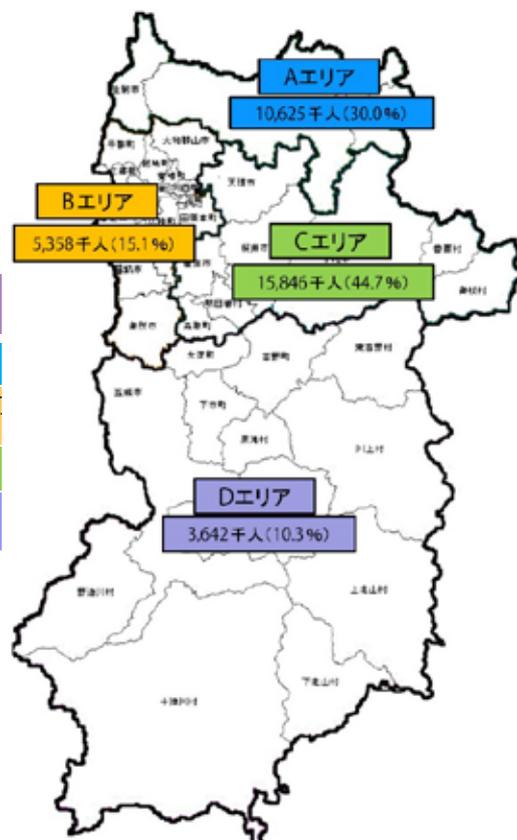
- ・平成 23 年以降、本県の観光客数は 3,300～3,500 万人と増加傾向
- ・全エリアで増加傾向にあり、特に C エリア（県東部）、A エリア（県北部）での増加数が多い

【本県の延べ観光客数の推移】



【エリア別の観光客数】

エリア	市町村
A(県北部)	奈良市、生駒市、山添村
B(県西部)	大和高田市、大和郡山市、御所市、香芝市、葛城市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
C(県東部)	天理市、橿原市、桜井市、宇陀市、曽爾村、御杖村、高取町、明日香村
D(県南部)	五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村



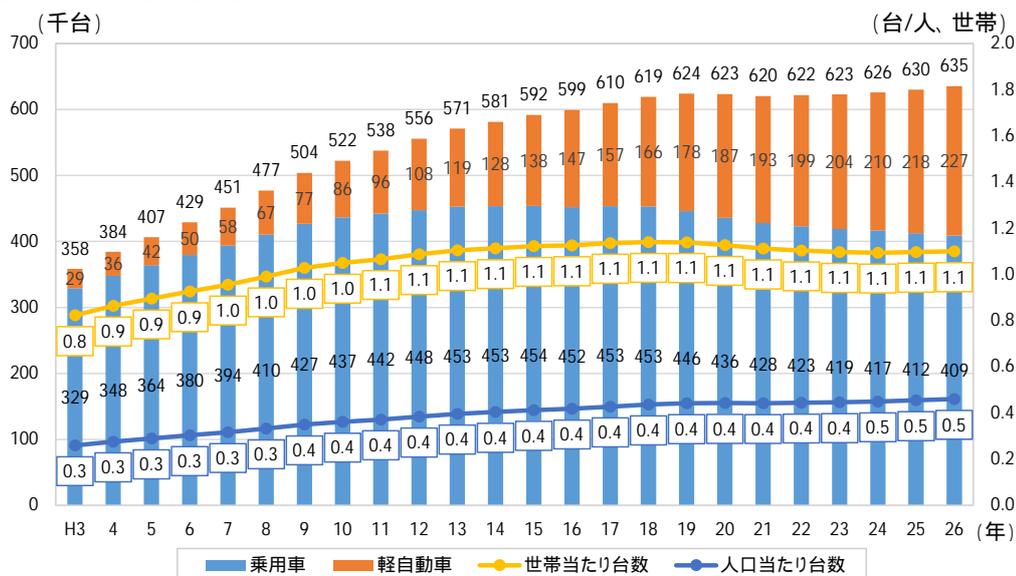
資料: 奈良県観光客動態調査報告書(平成 25 年)

1.4 マイカーの普及

1.4.1 自動車保有台数

- ・ 県内の自動車保有台数は平成 19 年をピークに減少傾向にあったが、平成 23 年より再度増加傾向
- ・ 特に軽自動車の保有台数が増加
- ・ 人口当たりの自動車保有台数は微増傾向

【自動車保有台数の推移】

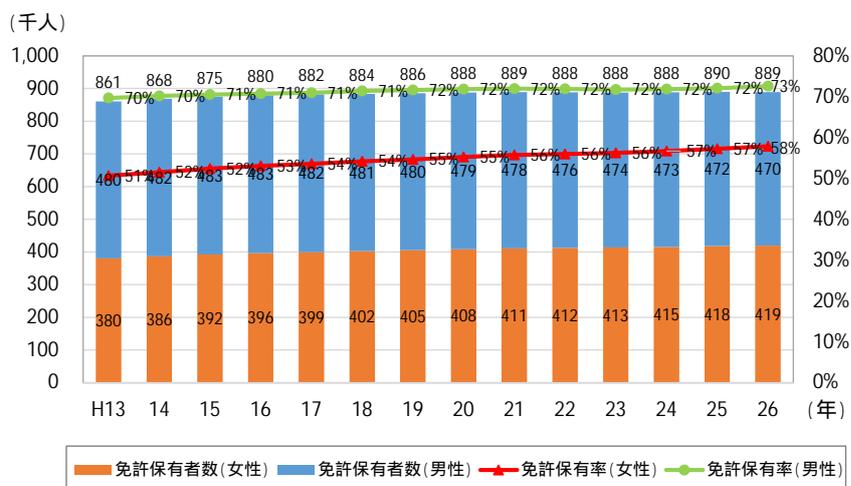


資料: 奈良県統計年鑑
奈良県推計人口調査

1.4.2 免許保有者数

- ・ 免許保有者数はほぼ横ばい状態
- ・ 男性の免許保有者数が減少する一方、女性の免許保有者数が増加傾向

【免許保有者数の推移】



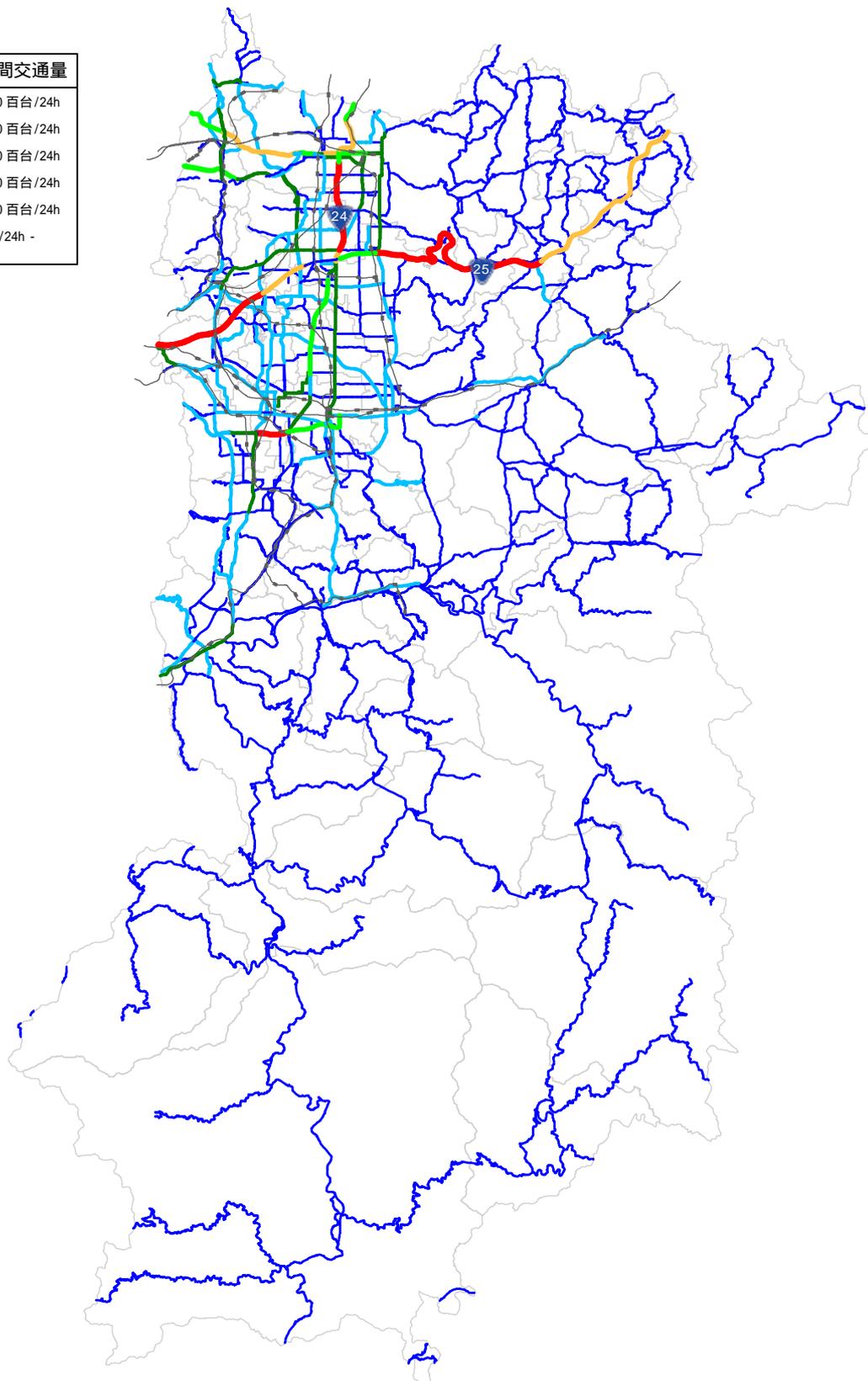
資料: 運転免許統計
奈良県推計人口調査

1.4.3 自動車交通量

- ・ 国道 24 号、国道 25 号など北部の幹線道路で交通量が多い
- ・ 南部の道路の交通量は 1 万台/24h 未満

【平日 24 時間交通量】

平日 24 時間交通量	
■	- 100 百台 /24h
■	100 - 200 百台 /24h
■	200 - 300 百台 /24h
■	300 - 400 百台 /24h
■	400 - 500 百台 /24h
■	500 百台 /24h -

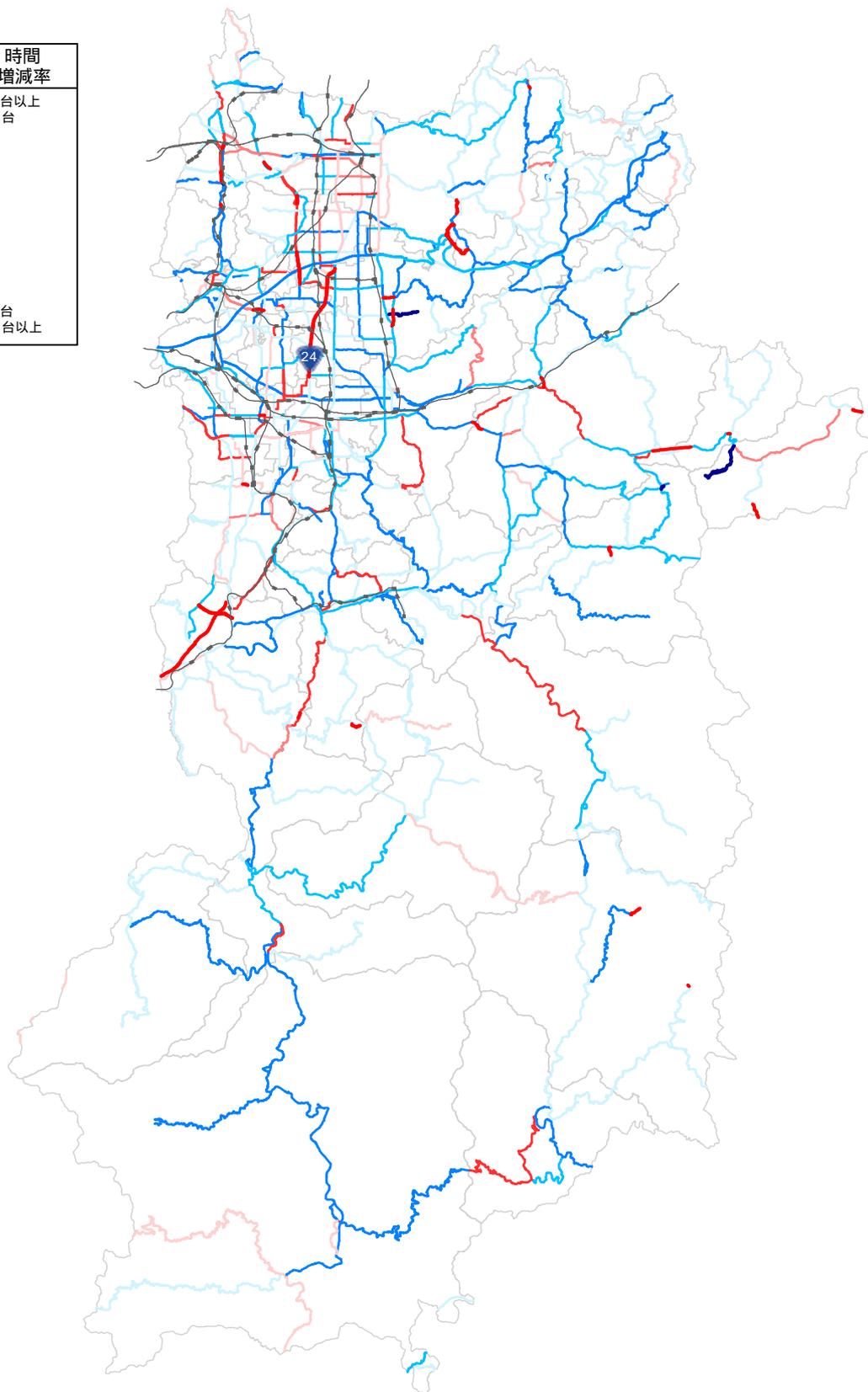


資料: 平成 22 年度道路交通センサス

・ 国道 24 号など、南北方向の道路で交通量が増加

【交通量の増減】

平日 24 時間 交通量の増減率	
■	H17 が 1 台以上 H22 が 0 台
■	-0.8
■	0.8 - 0.9
■	0.9 - 1.0
■	1.0 - 1.1
■	1.1 - 1.2
■	1.2 -
■	H17 が 0 台 H22 が 1 台以上



資料：平成 17 年度、平成 22 年度道路交通センサス

1.5 市町村財政

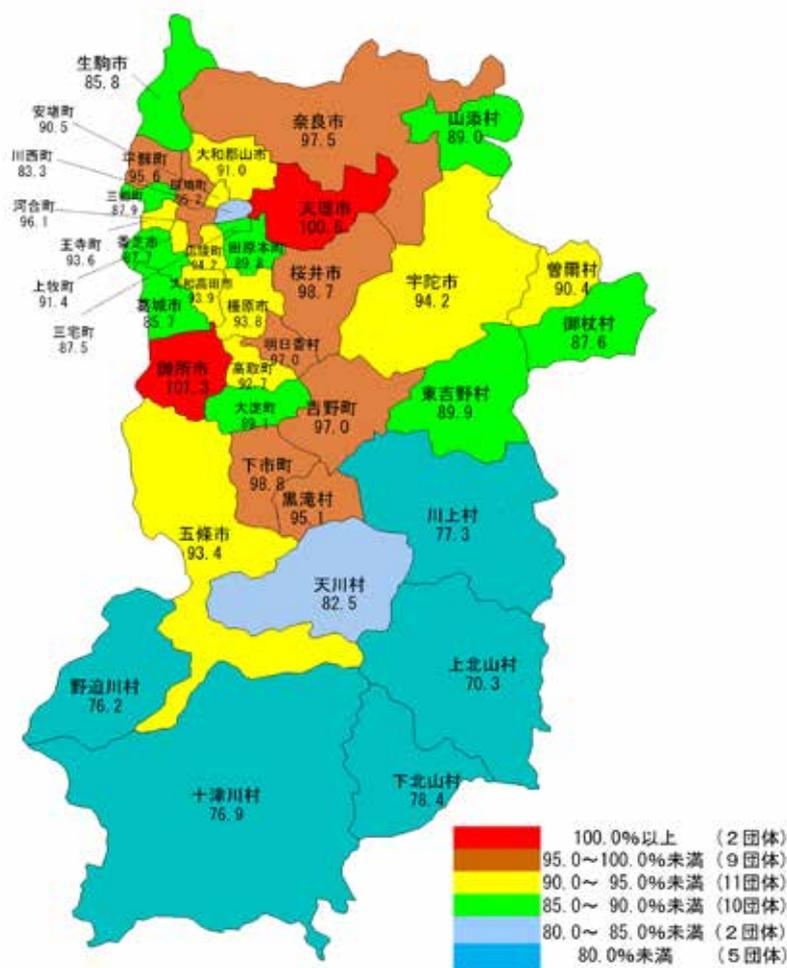
- ・平成 25 年度における県内市町村の経常収支比率（93.3）は、全国平均（90.2）を上回る
- ・北部等に比べ、南部の方が値が低く、財政弾力性大
- ・39 市町村のうち、19 市町村が平成 24 年度より悪化
- ・歳出（県全体）は、民生費が最も多く（約 32%）、次いで総務費（約 16%）、公債費（約 13%）が多い
- ・一方で、総務費や教育費、災害復旧費、公債費が多い市町村も認められる

【経常収支比率とは】

毎年度経常的に収入できる一般財源（地方税等）等に対する、毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源（人件費等）の割合
財政構造の弾力性を示す指標

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源等}}$$

【経常収支比率（平成 25 年度実績）】



資料：平成 26 年度 第 6 回奈良県市町村サミット資料(資料 4-2)

